

鹿沼市立西小学校等整備設計業務のプロポーザル審査について

鹿沼市立西小学校等整備設計者選定審査委員会

委員長 益子 則男

鹿沼市では、「鹿沼市公共施設等総合管理計画」を策定し、市有施設の総合的な管理に取り組んでおり、効果的・効率的な施設整備と管理運営など、実情に応じた適正な配置・更新を図ることを目指しております。同計画の方針に基づき、本事業では、西小学校、東大芦コミュニティセンター、鹿沼市西小学校学童保育館（以下、学童保育館という。）の機能を現西小学校敷地に集約させ、学校児童の安全に配慮しながら、災害に強く、長期的、効率的な運営、管理が行える「西部地区の地域拠点の構築」を目的としております。

また、西小学校については、「鹿沼市立小中学校再編計画」において、西小学校の校舎を活用して加園小学校との統合を推進しておりますが、同校の校舎は昭和47年に建築され築50年余を経過し、建物・設備の老朽化の課題を抱えております。本事業において、既存校舎の長寿命化改良工事を実施し、建物の耐久性を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げることを目標としております。

以上を踏まえたうえで、全体事業費19億円以内を堅持しつつも、西部地区のニーズに応える地域拠点とするために、実績ある設計者から優れた提案を募集し、優れた提案者を特定することを目的に本プロポーザル実施しました。

本プロポーザルに参加され、貴重な時間と労力を費やし、真摯にご尽力いただきました関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

1 鹿沼市立西小学校等整備設計者選定審査委員会

	氏名	役職等
委員長	益子 則男	鹿沼市行政経営部長
副委員長	佐藤 靖	鹿沼市教育委員会事務局教育次長
委員	秋澤 一彦	鹿沼市総合政策部長
委員	関口 守	鹿沼市市民部長
委員	杉山 芳子	鹿沼市こども未来部長
委員	柏崎 英一郎	鹿沼市都市建設部長
委員	埜 純人	鹿沼市都市建設部建築担当参事

2 審査経過

令和 8年 1月 7日 第1回選定審査委員会（公募型プロポーザル実施要領等の決定）

令和 8年 2月 2日 第2回選定審査委員会（参加表明者6者から技術提案書提出要請業者5者を選定）

令和 8年 3月 24日 第3回選定審査委員会（ヒアリング実施後、最優秀者及び優秀者の特定）

3 審査結果

最優秀者 株式会社 佐藤総合計画
優秀者（次点） AIS 総合設計 株式会社

4 審査講評

技術提案書の特定においては、主に3つの特定の課題に対する提案の的確性・独創性・実現性のほか、業務実施方針及び手法、取組意欲、業務の理解度について、書面並びにヒアリングに基づき、慎重に審査を行った。

それぞれの技術提案については、総事業費19億円以内の実現のほか、工事期間中は現西小学校敷地にてスクールバス停留所及び体育館の利用を前提とする整備計画であることなど制約の大きい設計条件ながらも、斬新で柔軟な発想が随所にみられたいづれも完成度の高いものであった。

その中で、最優秀者の提案については、総合的に見て最も堅実であり、実現性においても高い評価を得た提案であった。

具体的には、特定課題ア「既存校舎の長寿命化による耐久性向上と学び舎としてのリニューアルについて」では、中長期を見据えた改修計画により長く使い続けられる校舎づくり、躯体・仕上げの耐久性向上によるLCC削減、維持管理・更新の容易性のほか、災害時はコミュニティセンターとの連携による避難所としての防災拠点とすることによる授業の早期再開、児童の誰もが安全に過ごせるバリアフリー設計を提案している。

特定課題イ「単に行政サービスと子育て支援の場を提供するだけでなく、地域住民の多様なニーズに応え、成長できる「地域の核」となることを目指す東大芦コミュニティセンター及び学童保育館の考え方について」では、児童が安全に過ごせる児童保育館の配置、高齢者・車いす利用者・学童送迎者の利用に配慮した駐車場、新築建物について地場産材を活用した周辺環境との調和及び既存校舎との一体感を図り、NearlyZEB水準の実現可能性、騒音による相互施設や近隣への影響を最小化する提案が示されている。

特定課題ウ「小学校、東大芦コミュニティセンター、及び学童保育館という異なる機能が複合することで生まれる相乗効果を最大限に引き出し、子どもたちの安全性はもちろんのこと、地域住民の安全性・利便性を高め、地域コミュニティの活性化に貢献する敷地ゾーニング、及び工事期間中でもスクールバス停留所及び市民の休日夜間に体育館利用ができるような工事に関する考え方について」では、防犯・防災の観点からフェンスや外壁等による学校エリアのセキュリティ区画の明確化、工事ステップの工夫により体育館利用者とスクールバス停留所に配慮しつつ、特に工期短縮を指定工期から6カ月短縮することが提案されている。

優秀者の提案については、先進技術を活用し、機能の可視化ができる設計打合せ、現存躯体の性能を最大限生かした必要な水準以上の学校機能の具現化、大きな屋根の下で地域や児童が成長できる「地域の核」づくりなどの提案が目目を惹く、意欲的な内容が評価された。他方で、不十分な点も見られ、総合的には最優秀者に準じる提案であった。

その他惜しくも選からもれた3者の提案については、それぞれの確性や独創性において前二者上回る内容も見られたが、総合的に評価し及ばなかった。